

令和6年度 授業改善推進プラン6年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策	評価
国語	①「書く力」「表現する力」を高める指導と同時に「国語の学びそのものを楽しんでいる指導」が求められている。	①毎回の授業に設けられている「考えを共有する段階」において、「自分の書いた考えを共有すると相手から肯定的反応が帰ってくる」という経験ができるよう、「いいね!」「おもしろいね!」などのリアクションワードを掲示物と声かけによって推奨する。	
社会	①ワークテスト中の「思考力・判断力・表現力を問う作文問題」の無解答率や誤答率が高いため支援が必要である。	①毎回の授業のまとめの段階で、作文問題と同じように条件や文字数を指定して、その日の授業のまとめを自分で作文(または穴埋め)させる方法を採用する。	
算数	①「問題文を読む力や整理する力」に課題があるため支援が必要である。 ②「自分の考えを説明する力」「自分の考えを書く力」に課題があるため支援が必要である。	①毎回の授業で必ず「わかっていること」「求めること」に線をひいて文章を正しく読み取る力を高める。 ②どの授業においても「自分の考えを『書いて』『説明する』」という段階を設ける。	
理科	①実験と事象が結びついていないため、テストなどの問題に取り組んだ際に正しく答えることができない傾向がある。	①写真、図、絵、映像などを通して、視覚的に理解を深めることができるようにする。	
音楽	①基礎的な技能や知識、表現することに個人差があり、手立てが必要な児童が多い。 ②音楽の要素を聴き取ることやそれを的確な言葉で表現することに課題がある。	①手立ての必要な児童には個別に演奏する範囲を伝えたり相談したりして活動に取り組みさせる。ミニ先生など学習方法を工夫し児童同士で教え合うことで双方に力がつくようにする。 ②自分の言葉で表現すること、さらに音楽的な見方・考え方に置き換える活動を増やす。	
図画工作	①発想が広がらなかったり、技術が伴わず制作時間が延びてしまったり、途中で意欲が下がってしまったりする児童への支援が必要である。	①技法について説明する段階や、アイデアを考えていく段階で、全体で具体的な方法や発想の手がかりを示しながら、個別にも進度に合わせて指導していく。	
家庭	①実生活と学習内容との乖離が見られることがあるため支援が必要である。	①グループの形にし、学習内容と実生活との関連性を以前よりも活発に話せるようにすることで結びつきを強く認識できるようにする。	
体育	①「投の運動」「器械運動」を苦手と感じている児童が多い。	①トリオ学習(3人組)を取り入れることで、苦手な児童の底上げと得意な児童の思考の高まりを目指す。 ②自己肯定感を高めるために、認める声かけをする。	
外国語	①既習事項が定着せず、応用が難しい児童が数多く見られるため、支援が必要である。	①既習事項(単語・イディオム)などがいつでも目に入るよう、学年掲示板上に掲示物を用意する。また、発表を伴う授業の際に掲示物を黒板に貼り出し、原稿を作る際に表現を選べるようにする。	
道徳	①心情の深まりに個人差がある。	①より多くの考えに触れるようにする。また違う視点からも触れられるように様々な資料等を準備する。	
総合	①課題解決後の表現の仕方に個人差が見られる。	①効果的なプレゼンテーションの仕方を伝える。様々な発表形式を経験させる。	
ICT端末の活用	①効果的なプレゼンテーションを行うことができる技術を身に付ける。(主な教科等) ②適切な調べ方を身に付ける。 ③スクールタクト等を活用して、自分の意見を発信し、交流する機会を設ける。		